

令和6年度 木田まちづくりセンターの主な取組

事業名

木田さんぽ♪ × ふるさと歴史紀行

P

●事業実施に至った背景、目的

木田地区の歴史を学ぶ機会がこれまではあまりなく、住民が木田地区のことにもっと興味を持ってほしいと考えている。そこでまちづくりセンターが毎年、年に数回行っている「木田さんぽ♪」に併せ、歴史と今の情景を重ね、さらに地域に愛着がわくきっかけとなるよう、自治会も一緒に計画した。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・自治会の企画研修部と一緒に計画を立てた。
- ・講師との打ち合わせ→直接来館されて打ち合わせや、主にメールでのやりとり。
- ・地域住民には各種会議、会合で開催趣旨の説明を行い、併せてチラシを全戸配布した。

チラシ→



D

●事業の概要

開催日：令和6年11月17日(日) 13時～

講師：下村明雄氏

集合場所：木田まちづくりセンター

参加者：29名

「木田地区の歴史を見つめ直す」と題して、古墳時代の様子や、地域に残る地名や屋号の由来などの推測について深掘りをし、さらには馴染み深い木田八幡宮の建造に関する謎について考察されたお話を聞く。また、下村氏のロマンあるお話を聞き、住民や木田地区以外からの参加者が座学の後、資料と照らし合わせながら地区内を歩いた。

C

●事業実施後の振り返り

- 資料もあり、丁寧な説明でわかりやすかった。
- 雨で残念だったが、ゆっくり座学ができて良かった。
- △雨で歩く範囲が少なく、物足らなかった。
- △外での声が聞き取りにくかった。
- これまでまちセン事業に参加していない方の参加が多く、この事業の魅力を感じた。
- 参加者も職員も次回が楽しみ。

A

●令和7年度以降の方向性

まだまだお話を聞きたいという声が多かったので、次回の計画を早めに立て、部分的に深掘りをしながら、散歩する。特に、地名や屋号など、住民に身近な内容の学びにすることで、地域に興味を持ち今後の様々な事業に参加する人を増やす。また、目的を都度変えても「木田さんぽ♪」のように関わりやすい事業を通して、できるだけ多くの住民が地域の課題に我が事として関わるきっかけをつくる。

